

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー きらりユニット		
所在地	松江市津田町313番地		
自己評価作成日	平成27年1月12日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokennsaku.jp">https://www.kaigokennsaku.jp</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16
訪問調査日	平成27年1月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誰もが笑顔で過ごせるホームを目指し、職員は利用者様に対し気配り・目配り・思いやりを大切にしている。事業所の利便性を活かし、利用者様の希望に応じた場所への外出を行うなど、日常的な外出支援に力を入れている。また、協力医療機関との連携を密にとることで、今年はホーム内での看取りにも対応することが出来た。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所より5年が経過。ビルや会社などが多く近隣には民家が少ない環境の中では、地域との繋がりは築きにくいようだったが、地道な関係作りが実を結びつつあり、多くのボランティアに加え実習生の受け入れや小中学生の体験の場としての利用へと広がってきている。管理者が変わって数年がたち、理念に基づいた形が定着し、管理者は産休に入っているが、会議や研修、災害時の訓練も確実に実施されている。利用者の4割が車いすで重度な方も多く、今年度も看取りに取り組んでおり、職員のチームワークの良さや前向きな思いが強く感じられた。利用者が集まるホールからは歌声や笑い声が多く聞かれておりいい雰囲気を作り出していた。今後は、利用者の入れ替えから平均介護度は段々と軽くなりつつあるため、認知症に含めた残存機能を生かした関わりを検討していただきたい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関やエレベーター内に掲示すると共に職員が使用するテーブルに張り付ける等し、常に目に触れ、意識できるようにしている。	2か月に1回の職員ミーティングの際に理念についての話がある。施設内の数か所に目につきやすいように掲示しており、理念を感じながら行動できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや文化祭など、行事には積極的に参加している。また、今年は地域の方より野菜の差し入れを頂く機会もあった。	公民館行事には誘いがあり出かけて交流の機会を持つようにしている。実習生の受け入れや小中学校の福祉体験などの場としても利用が多い。銭太鼓やコーラス、楽器の演奏など多くのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小学生の『ふれあい町探検』学習や中学生の福祉体験学習などの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動報告を行い、参加者と意見交換や情報交換を行っている。会議の中で得た情報や、アドバイスを日々のサービスに活かしている。また、外部から講師を呼び、参加者と共に勉強会も行った。	毎回議題を決め参加依頼を出しており、利用者家族や地域の代表者の参加も多い。警察から振り込め詐欺や認知症の高齢者の行方不明の話の聞いたり、消防署からは応急手当についての講習を受けたりと毎回中身の濃い内容になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回運営推進会議に参加して頂き、現状の報告や必要時に相談が出来る体制が整っている。	包括へは施設の空き状況を伝えることで、入所者の紹介を受けている。また生活保護利用者もあり市の担当者が様子を見に来園したり、会議への出席を含めて多く関わりの機会を持っており良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会のメンバーを中心に毎年度マニュアルの見直しを行い、定期的に施設内研修を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設外研修に参加したり、施設内でも研修を行い言葉での拘束も含め、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会のメンバーを中心に定期的に施設内研修を開催し、理解浸透を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の開催を行い、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け丁寧に説明するよう心がけている。特に、入居後に起こりうるリスクや重度化対応については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望や意見を出してもらう機会として、利用者自治会を定期的に開催している。また毎月、家族様には状況報告のお便りを送付する他、こまめに電話での報告や相談を行い、家族様の意見や要望を確認するようにしている。	3か月に1回利用者自治会の開催を継続しており、行きたい場所や食べたい物など意見を聞く機会としている。ユーミー通信を送る際には日頃の様子を伝えることで意見を聞く機会としたり、面会時の声がけを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員の意見や要望を聞くようにコミュニケーションを図り、互いの意見が言いやすい雰囲気作りを心がけている。	2か月に1回の職員ミーティングの席で意見を聞くようにしている。直接管理者に言いにくい場合は主任が聞き、上に上げている。女性が多く産休、育休を利用して、仕事が継続できるよう働きやすいよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に応じて、労働時間の変更を行うなど、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための支援制度があり、資格取得後は給与に反映される。外部研修には出来るだけ多くの職員が受講できるよう勤務調整などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会等の参加を通じ、情報交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族、関係者との面談を行い、不安に思っている点や今後の生活に関する要望等をしっかりと受け止め、安心できる環境づくりが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の際に、家族の困っていることや不安に思っていることなどをゆっくりを伺う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や、本人や家族のニーズへの対応が難しい場合、事業所で出来る範囲を伝え、必要に応じて他のサービスについての情報提供が行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として、家事や趣味など出来ることに参加してもらい、互いに助け合い、日々の生活を寄り添いながら思いを共有できる関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に外出の付き添いを依頼したり、ホーム内の行事に家族を招待したりと、家族と本人の距離が離れ過ぎないように交流の場をもてるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の来訪時にはゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。また、本人の希望する場所への訪問は家族の協力を得ながら行えるようにしている。	交通の便がいい所にあり、友人、家族の面会は多い。お茶をしながらくつろげるように配慮している。家族の協力を得て、墓参りや馴染みの美容院へ行く機会が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や性格を把握し、職員間で情報の共有を行い、良好な交友関係が保たれるよう、雰囲気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や家族からの要望があれば、相談に応じたり、情報提供をおこなっている。また、家族の了解を得て、入院先等への面会を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での何気ない会話や吹きから、本人の思いを汲み取れるように努めている。把握が困難な場合には、家族の意見や意向を確認したり、本人の表情などから訴えたいことを推理し、本人の目線で考えるようにしている。	普段の会話の中から今までの生活の様子を聞くようにしたり、感じ取るように心掛けたりしている。以前の生活の様子を関係者から聞き出し、アセスメントの充実に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、関係者から可能な限り情報を得るように努め、入居後も継続して情報を聞き取り、職員間で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寄り添い共に過ごす中で、個々の生活リズムや有する能力の把握に努めている。体調の変化やその日の状況などを申し送り、情報は全員で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人への聴取、アンケートにより家族の意向や要望の聞き取りを行い、職員間で協議し介護計画を作成している。	1か月に1回目標に添ったモニタリングを行い、計画の見直しに繋げている。職員で意見を出し合い、担当者会議を行って計画を作成している。	できるだけ多くの関係者が参加して計画作成に当たり、より充実した計画になるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル、申し送り表、連絡帳などを活用し、情報を全職員で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況やニーズに対して、柔軟な対応を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉推進委員や地区の民生委員からの情報や助言を頂き、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関において適切な医療が受けれるように支援している。家族と協力し通院や受診を行ったり、往診を依頼するなど複数の医療機関と関係を密に図っている。	定期的な往診を受けたり夜間、緊急時にも対応可能な協力医を確保している。家族の受診の支援が困難な場合は、職員が日頃の様子を伝えることでの確かな指示が仰げるよう支援している。充実した支援が家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化や異常を感じた時、介護職は看護師に速やかに報告し、指示を仰ぎ、適切に受診が行える体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報を提供し、入院中は頻繁に面会に行き、状態を確認するようにしている。また、家族とも情報交換をしながら、早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化対応指針を説明し、事業所の方針を伝え、理解して頂いている。実際の段階ごとに家族との話し合いの場を設け、その都度意向の確認を行っている。また、医師、看護師、介護職員等で協力し、支援を行っている。	重度化の段階に合わせてできるだけ話し合いの時間をもち、本人、家族の意向を聞き、主治医の協力を得る形で対応が可能な場合には、検討していくこととしており、今年度も看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿った行動ができるように、定期的に講習の場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を中心に、定期的に通報・避難・消火等の訓練を実施している。また、夜間想定での訓練の実施も定期的に行っている。	年2回の消防署の指示のもと、避難訓練を実施したり、会議でAEDの使い方の研修を行ったりしている。過去の災害の反省から備蓄の用意もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回プライバシー保護についての勉強会を行っている。日常の中でも、言葉かけなど気付いた点については、職員同士で注意し合い、意識して関わりを持てるよう努めている。	排泄や入浴時のケアの際の言葉かけには特に注意をしているが、気づいた際にはその場で注意し合うようにして気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できる声かけを行い、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々々の状態や、本人の希望や要望を優先し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、自分の好きな洋服を着たりできるよう援助している。買い物には一緒に出掛け、本人の気に入ったものを購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理の一部、片づけなど無理のない範囲で一緒に行っている。食事は利用者の希望を聞きながら、食事形態などにも柔軟に対応できている。利用者と職員が楽しい雰囲気の中で食事出来ている。	野菜の皮むきなどの下準備やテーブル拭きなど手伝えることを行っている。水ようかん、どら焼き、豆腐白玉などおやつ作りを一緒に行うことで、楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録は毎食行い、状態の把握に努めている。咀嚼や嚥下状態においても都度見直しを行い、本人に合った食事を提供できるよう柔軟な対応ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しを行い、一人ひとりの状態に応じた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	重度でオムツを使用しているも、昼間は紙パンツにしてトイレ介助するようにしている。排泄パターンを把握することで、できるだけトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時やおやつ時にヨーグルトを提供したり、水分補給の促しや適度な運動、マッサージを行っている。また、食事でも食物繊維を摂取できるよう工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂けるように、本人の希望日やタイミングを考慮している。また、湯の温度や介助の仕方など細かい部分にも気を配っている。	重度な方は、2人介助で入浴できるようにしている。週2, 3回を確保し午前午後共に希望を聞き入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のベットやリビングのソファなど自由に休息が取れるよう配慮している。室温や掛け物を調整し、心地よく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	写真付きの薬情報をファイルに閉じており、処方都度、最新のものに入れ替え、全職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時は必ず複数の職員で確認し投与している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとり、能力や好き嫌いなどを把握し、本人の楽しみや役割を支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って外出できるよう努めている。時には家族にも協力を求めて支援している。地域のイベントにも積極的に参加している。	軽自動車です少人数ごとにできるだけ外出の機会を増やすようにしている。食材の買い出しを兼ねて買い物に出かけたり、紅葉狩りや外食に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は家族の同意のもと、所持していただき、事業所で預かっている場合も外出時には財布を渡し、支払いを自分で出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話は希望時に自由に使用してもらっている。また、個別に電話を所持されている方もあり、好きな時に受けたり、かけたりされている。要望があれば手紙のやり取りができるよう援助もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の多くを過ごされる共用スペースは安全な家具配置を考え、なじみの方と過ごせるよう配慮している。また、季節を感じながらゆったり過ごせるよう、花を飾ったり、壁飾りつけをしたり工夫をしている。	2階建ての1階の共有スペースは外からの光が多く入り大変明るい。外の景色は見えにくいですが花を飾ったり、季節が感じられるような展示物で季節感を出すようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々、自分の過ごしたい場所で過ごして頂けるような配慮を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを持ち込んで頂き、本人に使い勝手がよく、自分の部屋だという認識が持てるような、居心地のよい部屋になるよう工夫している。居室の入口にも花や絵を飾り、分かりやすくしている。	どの部屋も出窓があり、光が入りやすい広さで開放感が感じられる。家で使い慣れた物の持ち込みも薦めており、くつろげるように利用者、家族と話し合われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力や状態に応じて、安全に自立して行動が行えるような環境づくりに努めている。		